

令和5年度

東北公益文科大学 地域共創センター事業報告



目次

<ページ>

令和5年度地域共創センターの活動	1
地域共創センター活動状況	5
事業報告書（ヒアリング及びマッチング事業）	7
（公益教養プログラム FORUM21）	11
（教養講座共創カフェ）	19
（学生活動支援）	22
（サービスラーニング支援事業）	25
（地方創生に向けた人材育成事業「ハタラクカタチ」）	27
受託事業・補助事業の報告	28
発行物のご案内	30
新聞記事	31

令和5年度地域共創センターの事業は
庄内開発協議会「公益のふるさとづくり活動補助金」
の助成を受けて行いました

令和5年度 地域共創センター事業の概要

地域共創センター

センター長	吉村 昇
地域連携部会長	澤邊 みさ子
産学官連携部会長	小野 敦
デジタル人材育成部会	広瀬 雄二
防災・環境部会	呉 尚浩

(1) 地域共創センターの役割

令和2年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の4部会で活動している。

①地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として行政や企業、地域の人々と公益大をつなぎ、社会・地域課題の解決に取り組む。

②産学官連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

③デジタル人材育成部会

IT技術を活用し、地域資源に新しい視点を創る研究を展開し、地域の文化を未来につなぐ人材育成に取り組む

④防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

(2) 地域連携部会の各種事業

①ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和5年度は91件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

②「公益教養プログラム FORUM21」、「教養講座共創カフェ」、「地域連携シンポジウム」等各種シンポジウムの開催

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和5年度は「公益教養プログラム FORUM21」を7回開催した。また、学生主体で運営を行う「教養講座共創カフェ」を2回開催した。また、令和4年度から引き続き、「地域連携シンポジウム」を4回開催した。

③「学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営事業

「本学の活性化を目的とした学生による自主活動及び学生と地域との地域協働によるまちづくり活動」、「学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域

防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）等に関する申請に対し、助成を行った。「日本酒同好会」の“美酒県山形”での調査、「IVUSA」による庄内の海岸清掃活動など、2件の活動へ助成を行った。

④サービスラーニング支援事業

これから何かを企画してみようという学生たちが動き出すきっかけを与えるため、山形県朝日町を拠点に地域振興に取り組む「まよひが企画」の代表、佐藤恒平氏をお迎えして講座を実施し、学びの場を提供した。

⑤地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和5年度は、5社を訪問しインタビュー取材を実施した。また、庄内地区商工会広域連携協議会との共催で、庄内地域における若者の定着に向けた産学連携事業として「企業見学バスツアー」を開催し、ツアー体験レポートを作成した。記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol.5」を発行し、本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。

⑤受託事業・補助事業

「ボランティアコーディネーション力3級検定業務（酒田市社会福祉協議会）」を受託した。また、補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会）」の採択を受けた。

⑥学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラムFORUM21」、「教養講座共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのSNS（Instagram、Facebook、LINE）、地元市町の広報誌、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信した。特にSNSでは令和5年度中に110件の投稿を行い積極的に発信した。令和5年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ vol.5」、「酒田おもてなし隊2023年度活動録」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

(3) 産学官連携部会の各種事業

①共同研究・受託研究の推進

産学連携を目指す研究分野の検討を行い、受託研究・共同研究の推進を行った。

結果、受託研究1件、共同研究3件の協定を締結した。その他、教員の研究テーマが確認できる「研究シーズ検索」ページを大学ホームページに公開し、庄内地域の各行政に「研究シーズ検索」ページの通知を行い研究活動の推進を図った。

<受託研究>

- ・「酒田市観光に関する調査研究業務」

<共同研究>

- ・「酒田市のコンパクトシティ化の検討」
- ・「既存宿泊施設の再利用とインバウンド促進活動に関する調査研究」
- ・「アンテナショップの最適運営とそれに伴う商品開発に関する調査研究」

(4) デジタル人材育成部会

①履修証明プログラムやオンライン活用等による市民向け講座を通じた自己啓発やリカレント教育の機会の提供

本学で公開している情報系科目の「Unix 演習 a」「Unix 演習 b」「データベース論」「データベース演習」について社会人履修者を迎え、学びの機会を提供した。また、酒田市地域デジタル人材育成業務等委託事業のひとつ「ITに関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」では、都合5回のイベントを開催し、天文学、サーバ運用技術、IoTテクノロジーなどについての講座を展開し幅広い層の受講者に体験と知見を提供した。

②本学を中心とした産学官の人材育成連携活動の活性化による地域で活躍する交流の拡大
人材育成連携活動については昨年度も開催した公益大メディア情報コース学生と市内IT関連企業・プログラマー等との交流事業、ならびに地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験する「まるっと一日大学体験」に加え、公益大と地元IT企業が連携し、本学のプロジェクト(PJ)型応用演習科目を令和5年度に初めて開講した。このPJ型科目では、市内IT企業の社員が酒田市サンロクと共同で講義内容を計画し講師として参画することで、学生の就業意識と地元企業への親近感を高めた。また、酒田市総合計画の推進を題材とするテーマを扱う成果発表会には矢口酒田市長にも参加頂き、課題分析と作成したプロトタイプシステムについて高い評価を頂いた。

(5) 防災・環境部会

①自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ 防災

行政・専門家と連携しながら、飛島における防災・減災のあり方について、学習会と現地調査、報告会を実施した。特に、今年度は観光面の防災について、避難経路の確認、避難時間の計測、主要観光ルートにおける携帯電話の電波強度計測、旅館などの観光関係者へのインタビュー調査を行い、改善策の提言をまとめた。また、10月の日本海岸林学会酒田大会（公益大にて開催）の実施に合わせて、FORUM21として公開シンポジウムを開催した。当シンポジウムでは、専門研究者が、東日本大震災において注目された海岸林の津波減災機能を解説し、その後の海岸林の再生の様子（静岡県遠州灘、北海道白糖町など）や学会活動における「海岸林の将来」についての議論を紹介した。さらには、宮城県名取市閑上、仙台市若林区荒浜地区において、防災・震災学習、震災復興、海岸林の再生に関する視察とディスカッションを公益大生と東北工業大学の学生と共同で実施した。

□ 環境

公益大生を対象に、4 回目となる「海ごみ環境教育リーダー育成研修」を実施。また、第 23 回飛島クリーンアップ作戦に実行委員として参加（当日は公益大より 35 名参加）、公益大生が発案し NPO 法人パートナーシップオフィスと IVUSA が実施主体となった環境学習プログラム「海ごみカルタ」制作と体験会への協力（やまがた社会貢献基金助成事業）、株式会社ダイナムから IVUSA 山形酒田クラブへの漁網カッターとゴム手袋の贈呈を支援した。その他、2021 年度にスタートした「RE:プロジェクト」（三川町中高生ボランティアサークル「来夢来人」、鮭川村高校生ボランティアサークル「SAKEKKO」、NPO 法人パートナーシップオフィス、IUVSA、SCOP と連携）において、継続して赤川河口海岸クリーンアップ作戦を実施。公益大生による宮野浦海岸の ICC（国際海岸クリーンアップ）方式のゴミ調査も行った。

令和5年度地域共創センター活動状況

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
1	4月25日(火)	15:15～ 16:30	第2回 地域連携シンポジウム 庄内地域における再生可能エネルギー開発の事例研究	中研修室1	131
2	4月26日(水)	13:30～ 15:00	公益教養プログラム FORUM21 短期語学留学及び海外インターンシップ報告会	104 教室	30
3	5月10日(水)	13:10～ 14:55	公益教養プログラム FORUM21 「核なき世界」2023～核リスクの基礎を学ぶ～	中研修室1	43
4	5月11日(木)～ 5月18日(木)		チャレンジサポートウィーク開催	公益ギャラリー	—
5	5月16日(火)	15:10～ 16:40	第3回 地域連携シンポジウム 地域モビリティとサステナブルシティ	公益ホール	104
6	5月20日(土)	8:40～ 12:00	酒田まつり 山車行列参加(学生引率)		28
7	6月19日(月)	14:00～ 17:30	地域連携シンポジウム 番外編 北前船の街・酒田を歩き、土門拳の画角で庄内の未来を撮影する 会	舞子茶屋 相馬樓	24
8	8月9日(水)	13:30～ 15:30	第4回 地域連携シンポジウム(山形県との共催) やまがた水素みらいミーティング～港湾地域の水素利活用～	中研修室1	96
9	8月25日(金)	11:00～ 12:00	教養講座共創カフェ 原爆投下から78年 戦争と平和について考える	中研修室1	21
10	8月30日(水)	18:30～ 19:30	SAKATA Tech Night #2301 スーパームーン観望会	中研修室1 オンライン	75
11	9月4日(月)	15:00～ 16:30	地域共創センター事業報告会	中研修室2	6
12	9月10日(日)	9:00～ 17:00	ボランティアコーディネーション力3級検定 直前研修・検定試験	中研修室1	30
13	9月15日(金)	9:00～ 15:00	地元高校情報科生徒のメディア情報コース体験プログラム	中研修室1ほか	27
14	10月11日(水)	15:10～ 16:10	公益教養プログラム FORUM21 短期語学留学及び海外インターンシップ報告会	中研修室2	30
15	10月29日(日)	13:00～ 14:05	公益教養プログラム FORUM21 東日本大震災からみた海岸林の津波減災機能と再生の10年	301 教室	73
16	11月1日(水)	13:30～ 14:30	居合い抜き体験会	体育館	2
17	11月8日(水)	17:00～ 18:30	教養講座共創カフェ ヨガ in English	体育館	17
18	11月8日(水)	10:00～ 17:00	ビジネスマッチ東北2023 秋	夢メッセみやぎ	—
19	11月17日(金)	17:00～ 18:30	サービスラーニング支援事業 ウサヒから学ぶ非主流の地域おこし	中研修室2	58

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
20	11月21日(火)	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 オモシロイを創造しよう～ANA グループの地域創生～	中研修室1	28
21	11月22日(水)	8:20～ 13:40	庄内地域企業経営者講話と見学会「企業見学バスツアー」 (庄内地区商工会広域連携協議会との共催)	庄内地域	10
22	12月11日(月)	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 サブカルチャーの raison d'être (存在理由)	中研修室1	26
23	12月25日(月)	13:30～ 16:30	学生と酒田市内 IT 関連企業交流会	104 教室	20
24	1月19日(金)	19:00～ 20:30	SAKATA Tech Night #2302 マイクロクラウドサーバーをつくってみよう	中研修室3	6
25	1月26日(金)	19:00～ 20:30	SAKATA Tech Night #2303 マイクロクラウドサーバーをつくってみよう	中研修室3	6
26	2月20日(火)	11:00～ 12:00	公益大と地元高等学校等との連携推進のための会議	オンライン	14
27	2月23日(金)	13:30～ 15:00	公益教養プログラム FORUM21 NHK 記者が語る警察取材の現場	中研修室1	35
28	2月26日(月)	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2304 IoT 活用セミナー	中研修室3	3
29	2月27日(火)	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2305 IoT 活用セミナー	中研修室3	4

ヒアリング及びマッチング事業

事業名	ヒアリング及びマッチング事業	
目的	ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施協力を行う。	
	ヒアリング内容	依頼・相談者
1	「山をきれいにしてウォーキング」の参加者募集	酒田市農林水産部農林水産課
2	「第24回こばえちや山形全国競技かるた酒田大会」の補助員募集	山形県かるた協会 (酒田かるた会)
3	大学生サイバーパトローラーの募集	山形県警察本部 サイバー犯罪対策課
4	子供と遊ぶボランティアの募集	べいびーさーくる、 たけのこクラブ
5	「ボランティアスタッフ講習会」の実施について	山形県金峰少年自然の家
6	パラ・スポーツ体験交流会 大学生ボランティア募集	山形県教育局特別支援教育課
7	山形県「学生環境ボランティア」の募集	山形県環境エネルギー部 環境企画課、 NPO 法人環境ネットやまがた
8	「酒田まつり山車行列」への参加者募集	酒田市地域創生部交流観光課
9	第22回「身近な川や水辺の健康診断」に係る参加者募集	美しい山形・最上川フォーラム事務局
10	「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」参加者募集	美しい山形・最上川フォーラム事務局
11	「親子わくわくサタデー 科学のふしぎ発見」大学生ボランティア募集	生涯学習施設里仁館
12	「親子わくわくサタデー 川であそぼう！」大学生ボランティア募集	生涯学習施設里仁館
13	小中学生向け遊佐町海岸清掃イベントのボランティア募集	(株)ドリームマネージャー
14	「大学生ボランティア活動向け助成金制度」について	東北労働金庫
15	赤川花火大会チームボランティアスタッフ募集	赤川花火実行委員会
16	「環境やまがた大賞」への推薦について	山形県環境エネルギー部 環境企画課
17	「第55回山形県身体障がい者福祉大会開催におけるボランティア募集」について	酒田市ボランティア・公益活動センター
18	「光ヶ丘松林整備ボランティア」参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部森林整備課

	ヒアリング内容	依頼・相談者
19	「夏休み宿題お手伝い教室」協力ボランティア募集	酒田市教育委員会社会教育課
20	赤川花火大会おてつだい隊の募集	赤川花火実行委員会
21	十坂小学校での学習ボランティアについて	酒田市立十坂小学校
22	「10年後の酒田市に関するアンケート」実施への協力依頼について	酒田市総務部人事課 人材マネジメント部会
23	環境アプリの実証モニター募集について	酒田市地域創生部商工港湾課
24	「じろで庄内 2023」ボランティア募集	じろで庄内実行委員会
25	「スポ GOMI ワールドカップ 2023 山形 STAGE」参加者募集	(一社)海と日本プロジェクト in 山形
26	令和5年度やまがた魅力発信アンバサダー事業「あのね、」の学生アンバサダー募集	山形県しあわせ子育て応援部 多様性・女性若者活躍課
27	夏祭りの学生出演依頼について	小中島自治会
28	着衣泳講習会の際のボランティア募集	酒田地区広域行政組合消防本部 職員有志
29	「夏のボランティア体験 2023」の募集について	酒田市ボランティア・公益活動センター
30	「令和5年酒田交流おもてなし市民会議 研修会」の参加者募集	酒田市地域創生部交流観光課
31	「山形バリアフリービーチ大作戦」ボランティア募集	医療社団法人 みつわ会
32	「やまがた環境展」の出展募集について	山形県環境エネルギー部 循環型社会推進課
33	「あそぶ!まねぶ!こども大学(楽)」のボランティア募集	NPO 法人 明日のたね
34	「酒田の花火」ボランティアスタッフの募集	酒田の花火実行委員会
35	飛島における「島キャンプ」の参加者募集	合同会社とびしま
36	「やまがたワカモノ本音会議」参加者募集	(株)山形新聞社
37	「つるおかミライ会議」参加者募集	ANA あきんど(株)庄内支店
38	秋田県の豪雨災害による水害家屋の支援活動のボランティアバス参加者募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
39	「SAKATA PR 動画コンテスト in English 2023」の開催について	酒田市地域創生部交流観光課
40	映画「こころの通訳者たち」とのコラボ事業について	鶴岡市ボランティアセンター
41	夏祭りの学生ボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
42	第36回「やまがた景観賞」作品応募への協力依頼	酒田市企画部企画調整課
43	本学への視察依頼について	北海道科学大学
44	「2023」クリーン作戦」実施について	酒田「小さな親切」の会
45	映画「30(さんまる)」の上映とコラボ事業について	鶴岡市ボランティアセンター

	ヒアリング内容	依頼・相談者
46	「ヤマガタ未来デザインキャンパス」参加者募集	(有)スエヒロ みんなのそら
47	「酒田市男女共同参画推進計画（ウイズ・プラン）市民ワークショップ」参加者募集	酒田市企画部企画調整課
48	子ども向けイベントのボランティア募集	おもちゃ図書館うつぶたっぷ
49	「国際交流まつり in 中町 2023」のボランティア募集	酒田市地域創生部地域共生課 国際交流サロン
50	「いいいろいろ展」のボランティア募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
51	「光ヶ丘松林整備ボランティア」募集について	山形県庄内総合支庁 産業経済部森林整備課
52	特別支援級の子ども向けイベント「ありがとうあふれる感謝祭」の学生ボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
53	遊佐町の観光に関するワークショップ、まちづくり勉強会の参加者募集	加藤総業(株)
54	地域清掃活動の参加者募集	酒田市倫理法人
55	「シェフによる庄内柿の調理見学&試食」参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
56	「リカバリーと共に描く 未来の福祉研修会」参加者募集	一般社団法人 Pasio
57	「砂防林を育てよう」参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部森林整備課
58	芋煮会でのボランティア募集	みんなのそら
59	第18回「ボランティア奨励賞」の応募及び広報について	SYD（公益財団法人修養団）
60	クリスマス会について（学生出演依頼）	酒田東ロータリークラブ
61	中学生による職場体験感想文のハタラクカタチへの掲載について	クリーンサービス(株)
62	酒田市やさしいまちづくり除雪援助事業「除雪ボランティア」の募集	酒田市健康福祉部 高齢者支援課
63	「箏・尺八・三絃演奏会」のボランティア募集	酒田三曲協会
64	「旬の食材味わいキッチン～庄内の秋の味覚を学ぶ体験学習会 in 遊佐町～」参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
65	「こども赤ちゃん EXP02023in 酒田」のボランティア募集	おもちゃ図書館うつぶたっぷ
66	映画「僕が君の耳になる」の上映とコラボ事業について	鶴岡市ボランティアセンター
67	「きこえのバリアフリー教室」の参加者募集	鶴岡市ボランティアセンター
68	「第2回 サウンドテーブルテニス交流会」の参加者募集	山形県立酒田光陵高等学校 ビジネス流通科
69	「旬の食材味わいキッチン～郷土料理を作って食べよう～」参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課

	ヒアリング内容	依頼・相談者
70	映画「オレンジランプ」の上映とコラボ事業について	鶴岡市ボランティアセンター
71	「ヤマガタ SDGs ミライラボ」への出演依頼について	(株)山形テレビ
72	「山形 SDGs アクションZ 世代トークセッション」への学生出演依頼について	(株)山形新聞社
73	「みんなのSORAI for 4days」ボランティア募集	KIDS DOME SORAI
74	連続講座「地域力創造と地域おこしのヒント」参加者募集	総務省地域力創造グループ
75	映画「こんな夜更けにバナナかよ」の上映とコラボ事業について（学生出演依頼）	鶴岡市ボランティアセンター
76	北庄内食援隊のイメージキャラクターの作成について	北庄内食援隊
77	「令和5年度環境地域づくり担い手連携推進セミナー」の参加者募集	山形県環境エネルギー部 環境企画課
78	「ライフキャリア相談サロン」の参加者募集	鶴岡商工会議所
79	「酒田・平泉の虹のかけ橋～酒田歴史ストーリーづくり」の参加者募集	酒田まつり実行委員会
80	酒田まつりでの時代行列の参加者募集	酒田まつり実行委員会
81	「庄内で多様な働き方推進オンラインセミナー」の参加者募集	山形県庄内総合支庁 保健福祉環境部子ども家庭支援課
82	「酒田市公益活動支援補助制度説明会&ボランティア・市民活動交流会」の参加者募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
83	「山形県少年警察大学生ボランティア」の募集	山形県酒田警察署
84	映画「こんな夜更けにバナナかよ」の上映とコラボ事業について	鶴岡市ボランティアセンター
85	「次世代のヒロインが帰ってきたい地域、住みたい地域とは」の参加者募集	山形県庄内総合支庁 総務企画部総務課
86	『食の都庄内』交流会」の参加者募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
87	「「住みたい」×「持続可能」な街を考える若者座談会 in 酒田」の参加者募集	酒田市企画部企画調整課
88	「ひまわり甲子園 In 山形&能登半島地震被災地支援」の参加者募集	(有)スエヒロ みんなのそら
89	ショート動画への学生エキストラ募集について	酒田市産業振興まちづくりセンター サンロク
90	映画「Silent Love (サイレントラブ)」の上映とコラボ事業について	鶴岡市ボランティアセンター
91	加茂水族館でのボランティアガイド募集	鶴岡市ボランティアセンター

公益教養プログラム FORUM21

事業名		公益教養プログラム FORUM21		
目的		当センターが企画・運営し、学内外の講師による幅広いテーマのプログラムを課外の教養講座（公開講座）として開催。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	講師・報告者	役職・職名
1	4月26日 (水) 13:30～15:00	短期語学留学及び海外インターンシップ報告会	本学学生	国際教養コース
2	5月10日 (水) 13:10～14:55	「核なき世界」2023 ～核リスクの基礎を学ぶ～	両角 晃一	元株式会社テレビ朝日 常務取締役
3	10月11日 (水) 15:10～16:10	短期語学留学及び海外インターンシップ報告会	本学学生	国際教養コース
4	10月29日 (日) 13:00～14:05	東日本大震災からみた 海岸林の津波減災機能と再生の10年	坂本 知己 鷲山 立宗 ほか2名	元森林総合研究所 静岡県農林技術研究所 ほか
5	11月21日 (火) 18:30～20:00	オモシロイを創造しよう ～ANA グループの地域創生～	前田 誠	ANA あきんど株式会社 庄内支店 支店長
6	12月11日 (月) 18:30～20:00	サブカルチャーの raison d'être (存在理由)	渡辺 暁雄	本学准教授
7	2月23日 (金) 13:30～15:00	NHK 記者が語る警察取材の現場	小林 桃子	日本放送協会 山形放送局 記者

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	短期語学留学及び海外インターンシップ報告会		
開催日時	令和5年 4月 26日(水) 13:30 ~ 15:00		
会場	104教室		
内容	<p>語学留学・海外インターンシップへの参加を検討している学生や興味のある学生など多くの学生が語学留学・海外インターンシップについてのイメージを広げ、前向きに検討するきっかけとなることを目的に開催。</p> <p>短期語学留学（オーストラリア、ニュージーランド）と海外インターンシップ（モンゴル）に参加した学生から日本との文化の違い、日常生活や大学について、インターンシップ先での業務内容等について報告した。</p>		
報告者	所属・職名	国際教養コース	
	氏名	本学学生	
主催	東北公益文科大学 教務学生課		
協力団体			
参加人数	30名		
感想	<p>留学を考えている学生を中心に参加いただいた。</p> <p>学生の報告では、「日本の当たり前は世界の当たり前では無かった。」「視野を広げることが出来た。」「価値観や考え方の違いを学ぶことが出来た。」「自分自身を変え、成長させるきっかけになった。」など、語学留学や海外インターンシップに興味のある学生にとって参考になり、前向きに考えられるものになったと感じた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	「核なき世界」2023 ～核リスクの基礎を学ぶ～		
開催日時	令和5年 5月 10日(水) 13:10 ～ 14:55		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>本学の講義である「メディアと社会」を市民の方へ公開する。</p> <p>東日本放送代表取締役社長、テレビ朝日常務取締役を歴任され、映画『殿、利息でござる!』の制作責任者も務め国内外の時事問題について幅広い知見をお持ちの両角氏をお招きし、核戦争の危機から解放されるため、唯一の被爆国・日本が世界に果たすべき役割について考える。</p> <p>米国の科学者らの地球滅亡までの時間を示す「終末時計」や核兵器をめぐる世界情勢などについてご講演いただいた。</p>		
講師	所属・職名	元株式会社テレビ朝日 常務取締役	
	氏名	両角 晃一 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	43名		
感想	<p>時事問題特講の受講学生36名、教職員2名、一般参加者5名の計43名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「5月9日のプーチン氏の演説やNATO日本事務所の開設検討などタイミング的に良かった催しだった。」「改めて平和について考え、一人ひとりが行動(勉強)しなければならないと感じた。」「核の歴史と現在の状況についてわかりやすく講演いただき、大変ためになりました。」「具体的な行動は出来なくても、核についての関心だけは失わず保ち続けたい。」など多くの感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	短期語学留学及び海外インターンシップ報告会		
開催日時	令和5年 10月 11日(水) 15:10 ~ 16:10		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室2		
内容	<p>語学留学・海外インターンシップへの参加を検討している学生や興味のある学生など多くの学生が語学留学・海外インターンシップについてのイメージを広げ、前向きに検討するきっかけとなることを目的に開催。</p> <p>短期語学留学（アイルランド）と海外インターンシップ（モンゴル）に参加した学生が日本との文化の違い、日常生活や大学について、インターンシップ先での業務内容等について報告した。</p>		
講師	所属・職名	国際教養コース	
	氏名	本学学生	
主催	東北公益文科大学 教務学生課		
協力団体			
参加人数	30名		
感想	<p>留学を考えている学生を中心に参加いただいた。</p> <p>学生の報告では、「最初は自信がなかったが、相手との会話で沈黙が生まれないように心掛けて話すようにした。」「現地の方は、他人の評価に左右されることがなく、堂々として自分の意思を持っている人が多いと感じた。自分もそうなれるようになりたい。」「大学の授業はグループワークが多く、クラスの人と交流する機会が多かった。言葉がすぐに出てこなくて黙り込んでしまうこともあったが、簡単な英単語や写真などを使いながら話すことで自分の思いを徐々に表現できるようになった。」など、語学留学や海外インターンシップに興味のある学生にとって参考になり、前向きに考えられるものになったと感じた。</p>		

FORUM2 1 活動報告書		担当者	呉 尚浩
事業名	東日本大震災からみた海岸林の津波減災機能と再生の10年		
開催日時	令和5年 10月 29日(日) 13:00 ~ 14:05		
会場	東北公益文科大学 酒田キャンパス 301教室 (教育研究棟3階)		
内容/講師	<p>第一部「東日本大震災からみた津波減災機能と再生の10年」 海岸林のもつ多面的機能のうち、東日本大震災において注目された津波減災機能について、市民に向けてわかりやすく解説するとともに、その後の海岸林の再生の様子や学会活動における「海岸林の将来」についての議論を紹介した。</p> <p>■ 報告・パネリスト 坂本 知己 氏 元森林総合研究所 鷺山 立宗 氏 静岡県農林技術研究所 岡田 穰 氏 専修大学商学部 佐藤 亜貴夫 氏 国土防災技術株式会社</p> <p>※当シンポジウムに引き続き、同会場で第二部「庄内海岸松原再生計画の現状と課題」をテーマとしたシンポジウムを開催。庄内海岸の砂防林の現状と松原再生計画の概要について紹介し、施業管理指針の改正といった実態と計画の現状と課題について報告。</p>		
主催	日本海岸林学会		
協力団体	共催：地域共創センター防災・環境部会、出羽庄内公益の森づくりを考える会		
参加人数	73名		
感想	<p>日本海岸林学会酒田大会（公益大にて開催）との共催で公開シンポジウムを開催した。当シンポジウムでは、専門研究者が、東日本大震災において注目された海岸林の津波減災機能を解説し、その後の海岸林の再生の様子や学会活動における「海岸林の将来」についての議論を紹介した。</p> <p>東日本大震災以降に注目された海岸林の津波減災機能について市民への啓発の機会が少なかったが、最新の知識をわかりやすく学び、今後の海岸林の重要性について市民が理解を深める機会として大変有意義であった。さらには、全国的な海岸林造成の事例（静岡県遠州灘、北海道白糠町などの取り組み）も紹介され、海岸林が重要な役割を果たしている庄内の海岸林において、改めてその価値を認識できる機会となった。</p> <p>また、ディスカッションにおいては、庄内で松くい虫被害が再拡大する中で、全国的にも技術・コスト的に海岸林をクロマツのみで守ることの難しい現状が報告され、広葉樹を活かした多様性ある森づくりをさらに積極的に推進する必要性を再認識した。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	オモシロイを創造しよう～ANAグループの地域創生～		
開催日時	令和5年 11月 21日(火) 18:30～20:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>コロナ禍での客室乗務員の副業先をグループ会社とし、ANAの制服を着用してANAを名乗りながらの業務が可能になった全国で唯一の取り組み「ANA SHONAI Blue Ambassador」を発案した前田氏を講師としてお招きした。</p> <p>ANAの沿革やANAグループの地域創生、地域活性化に向けたの更なる取り組みについて、時折クイズを交えながらご講演いただいた。</p> <p>「ANAセールス株式会社」が「ANAあきんど株式会社」に社名変更した際に課された地域課題の解決というミッションに対して、課題解決よりも「オモシロイ」を探そうと考え「ANA SHONAI Blue Ambassador」が誕生したお話しや地域創生活動にあたって重要な心構えなど、興味深い内容だった。</p>		
講師	所属・職名	ANAあきんど株式会社 庄内支店 支店長	
	氏名	前田 誠 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	28名		
感想	<p>本学学生4名、教職員4名、一般参加者20名の計で28名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「コロナという苦境をチャンスに変えるという発想が凄いなと思った。普段聞くことのない航空会社の中の話を知ることが出来て楽しかった。」「自分がオモシロイと思える活動で、地元や庄内を盛り上げたいと思いました。」「新しい動きが庄内から始まっていることに嬉しさを感じた。」「庄内プライド...ついつい私たちが忘れていた気持ちを外からの視点で町の良さを示してくれるのは、地元民の何よりの喜びです。」など、多くの意見や感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	サブカルチャーの raison d'être (存在理由)		
開催日時	令和5年 12月 11日(月) 18:30 ~ 20:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>教育実践に顕著な成果をあげた教員を表彰する本学独自の制度「東北公益文科大学 ベストティーチャー賞」を2022年度に受賞した渡辺暁雄准教授より、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。</p> <p>渡辺暁雄准教授の専門分野のうちの1つである「サブカルチャー」の歴史や世の中に及ぼす影響、映画や歌詞から読み取れる時代背景などについて映像などを視聴しながらご講演いただいた。</p> <p>渡辺准教授は、サブカルチャー＝若者たちの反抗や変革など民衆の力で生まれたカウンターカルチャーであると話し、世界の映画や音楽を例にそれぞれの時代背景から見える作者の思いを解説。「サブカルチャーの癒す力を大事にしつつ、自分に染み入っている言葉を使って自分を主張する武器やツールとしても活用してみてください」と話していた。</p>		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 准教授	
	氏名	渡辺 暁雄 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	26名		
感想	<p>本学学生7名、教職員6名、一般参加者13名の計で26名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「サブカルチャーという誰もが触れたことのある題材で時代背景から物事を読み取っていく大切さを学びました。」「サブカルチャーの発展の一端に反抗精神というものがあるが、その表現や行動には意味が存在していることが分かった。」「サブカルチャー論の授業を受けていたので、本日の講演会は学び直しのように感じることができたし、授業とは違う内容を学べてとても面白かった。」など、多くの意見や感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	NHK 記者が語る警察取材の現場		
開催日時	令和6年 2月 23日(金) 13:30 ~ 15:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
内容	<p>警察司法担当の小林氏をお招きした。小林氏は2019年NHKに入局し現在6年目。NHK入局を目指したきっかけ、警察司法担当の仕事内容、警察取材や被災地取材の現場についてご講演いただいた。</p> <p>NHK内のコーナー「とめっべ! 事件事故」では、事件事故防止に向けたニュースを警察と協力しながら情報を発信し、どうしたら自分ごと化してくれるか考えながら業務にあたっていると話した。また、被害者やご遺族への取材は何のためにするのか、傷口に塩を塗るようだとの疑問と葛藤があったが、「『行き場のない悲しみや怒り等を知ってほしい、大切な人が生きていたことを伝えたい。』の声を黙殺するのか」という上司の言葉を受け、「日々葛藤する中でもニュースとして伝えなければいけない声があります。だから私は記者をしています。期待・信頼に応えていけるよう対話を重ね、より良い報道でより良いNHKであるため、NHKがどうあるべきか皆さんと一緒に考えていきたいです。」と記者としての想いを語っていた。</p>		
講師	所属・職名	日本放送協会 山形放送局 記者	
	氏名	小林 桃子 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	35名		
感想	<p>本学学生2名、教職員2名、一般参加者31名の合計で35名の方に参加いただいた。参加者アンケートでは、「報道記者の内側がよくわかる内容でとても良かったです。たまにくすっと笑える楽しい講演でした。一方ご遺族取材については胸を打たれました。聞きに来て良かったです。」「将来の進路の一つに考えている私自身にとって大変勉強になりました。」「何気なく見ているニュースにこれほどの想いで向き合い、作っておられるとは思いませんでした。」「ご遺族取材の必要性について少し理解が深まったように思います。」など、多くの意見や感想が寄せられた。</p>		

教養講座 共創カフェ

事業名	教養講座共創カフェ		
目的	本学教員や学生が話題提供者となり、小規模で双方向形式の講座として開催する。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	企画者
1	8月25日 (金) 11:00~12:00	原爆投下から78年 戦争と平和について考える	本学4年生 大沼 蘭
2	11月8日 (水) 17:00~18:30	ヨガ in English	本学准教授 フェック・エドモンド

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	原爆投下から 78 年 戦争と平和について考える		
開催日時	令和 5 年 8 月 25 日(金) 11:00 ~ 12:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室 1		
内容	<p>講師としてお招きした三浦氏は鶴岡市在住の洋画家。広島市の「おりづるタワー」スパイラルスロープの 1 層目をデザインするなど 90 歳を超えてなお第一線で活躍中。</p> <p>三浦氏は 15 歳の時に爆心地から 4 キロ先の広島市内で被爆。原子爆弾が投下された瞬間、当時の街の様子、自身や家族が広島市から鶴岡市に来た経緯などについてご講演いただき、講演後は質疑応答が行われた。</p> <p>被爆当時の様子について、「青白い閃光を全身に浴びた後に大きな音がして爆風が吹いた。爆風で雲が押されて青空になり、そこにきのご雲ができた。」「黒い塊のような焼けた人の集まりが手を伸ばしながら「水をください」と言っていたが、水を持っておらずあげられなかった。1 滴でもあげられたらと今でも思っている。」などと話していた。</p> <p>また、「世界には約 1 万 3,000 発もの原子爆弾があるとされているが、一発も使われてはならない。」「日本が先頭に立って、核のない平和な世界になることを祈っています。」と想いを語っていた。</p>		
講師	所属・職名		
	氏名	三浦 恒祺 氏	
企画者	本学 4 年生 大沼 蘭		
協力団体			
参加人数	21 名		
感想	<p>本学学生 8 名、教職員 3 名、一般参加者 10 名の計 21 名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「戦争のことを忘れず、平和であることに感謝し、伝え続けて三浦さんの作品の太陽のように明るく照らし続ける未来を作っていきたいです。」「原爆は地球上に存在してはならないもの、という三浦さんの言葉が胸に刺さりました。」「実際に被爆された方からの言葉だからこそ、伝わる部分が多くありました。」などの感想が寄せられた。</p>		

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	ヨガ in English		
開催日時	令和5年 11月 8日(水) 17:00 ~ 18:30		
会場	東北公益文科大学 体育館		
内容	<p>フィリピン出身で酒田市ATLのフェイリン サンディエゴ氏を講師としてお招きした。フェイリン氏は来酒12年で、休日は松陵コミュニティセンターと琢成コミュニティセンターでヨガ教室を開催している。</p> <p>初めてヨガを体験する参加者が多くいたが、初心者でも分かりやすく、楽しく英語でヨガを体験した。また、ヨガ後のトークタイムでは学生がフェイリン氏へ自身の留学体験や将来の目標を話していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨガ (1時間) ・フェイリン氏と英語でのトークタイム (30分) 		
講師	所属・職名		
	氏名	フェイリン サンディエゴ 氏	
企画者	本学准教授 フェック・エドモンド		
協力団体			
参加人数	17名		
感想	<p>本学学生12名、教職員5名の計17名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「今回のヨガ体験で体も温まり、英語も学べてとても良い体験でした。貴重な体験をありがとうございました。」「英語は得意ではないけれど、ヨガで動きがついていることで楽しくできた。日常生活で生きた英語を聞くことがないので、新鮮で良かったです。」「休日など時間が空いているとき継続的にしてみようを思った。」などの感想が寄せられた。</p>		

学生活動支援

事業名	学生活動支援		
目的	本学学生の意欲的な自主活動を支援することで、本学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実を図る。		
	助成金・補助金	事業の目的	採択件数
1	学生活動支援助成金	大学の活性化を目的とした本学学生による自主活動及び本学学生と地域との協働によるまちづくり活動を支援するため、学生からの具体的な活動に関する申請に対し、選考の上、「学生活動支援助成金」として活動経費の一部の助成をすることとする。	0件
2	災害復興・地域防災活動支援助成金	学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）に関する申請に対し、選考の上「災害復興・地域防災活動支援助成金」として活動経費の一部を助成することとする。	0件
3	まちづくりインターンシップ補助金	学生の街づくり活動及び学生の自主活動を支援するため、街づくりに関する活動（インターンシップ・事例発表・研修活動など）で申請のあった学生について、「まちづくりインターンシップ補助金」として活動経費の一部を助成することとする。	2件

【まちづくりインターンシップ補助金採択一覧】

No.	申請日	団体	活動実施代表	活動内容	支出額
1	5月8日	日本酒同好会	3年 向谷地那響	美酒県山形での調査	4,800円
2	7月10日	IVUSA 山形酒田クラブ	3年 今井美結	山形県日本海沿岸清掃活動	157,000円

申請者氏名 日本酒同好会 向谷地那響

1. インター シップ先の 名称	日本一美酒県 山形フェア
2. 実施期間	令和 5年 6月 3日 から 5年 6月 3日 まで
3. インター シップの 具体的な 内容	<p>(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか)</p> <p>山形県総合文化芸術館前にて開催される「日本一美酒県 山形フェア」にて、アンケート調査を行う。今後、日本酒同好会で日本酒造りを予定しており、どのような日本酒にするか方針を決める際の参考にする。</p> <p>○手法 口頭</p> <p>○アンケート対象者 「日本一美酒県 山形フェア」の来場者</p> <p>○アンケート内容 性別、年代、どこから来たか、日本酒を購入する際の決め手、どんな日本酒があったら飲みたいか</p>
4. 活動の 成果	<p>(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など)</p> <p>県内外の方や米国の方など、計17名のご来場者からアンケートの回答にご協力いただいた。アンケートの中には、「公益大っぽい、学生らしさのある日本酒が飲みたい」との声もあった。</p> <p>県内の方だけでなく、県外からお越し方や県内各地の酒蔵の方々と話をしていく中で、実際のニーズや蔵ごとの雰囲気を知ることができ、これからの日本酒造りに生かせる情報が多く得ることができた。イベントの来場者は幅広い年齢の方が来ていたが40代以上が多い印象だった。日本酒を造る上で、日本酒を多く飲む年代も大切にしたいが、20代や30代の若い人にも飲んでもらうために、ラベルデザインはもちろん、米の品種などにもこだわりたい。</p> <p>今後の活動では、酒造見学をさせていただく予定。今回の活動で得た情報を活かして、どんな日本酒を作りたいかを明確にして酒造に企画書を提出したい。</p>

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

申請者氏名 IVUSA山形酒田クラブ 今井美結

1. インターンシップ先の名称	海浜自然の家
2. 実施期間	令和 5年 8月 29日 から 5年 9月 2日 まで
3. インターンシップの具体的な内容	<p>(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか)</p> <p>8月29日 鳥海温泉遊楽里にて結団式、西浜海岸清掃、班ミーティング 8月30日 飛島田下海岸清掃、オバフトコロ海岸清掃、班ミーティング 8月31日 十里塚海岸清掃、ビーチフラッグ、班ミーティング 9月1日 十里塚海岸清掃、パケツリレー、相撲、班ミーティング、花火 9月2日 宿舎清掃、西浜海岸清掃、解団式</p> <p>①知識を知る NPO法人パートナーシップオフィスさんと東北工業大学の岸本さんから、海ゴミの回収方法、危険物の取り扱い方、なぜ海ゴミを回収する必要があるのか等々、活動が始まる前に知識面をインプットすることで、活動に主体的に取り組める環境を作る。</p> <p>②学生同士の交流 星空観測(晴天時)やアイスブレイクとしてフォトコンテストを班ごとに実施する。学生同士が交流を深めることにより継続的に問題に取り組める関係性を作る。</p> <p>③鳥崎海岸と釜磯海岸の清掃 初日は釜磯海岸の清掃、鳥崎海岸の清掃を行う。特に釜磯海岸の湧水は鳥海山・飛島ジオパークにも認定される海岸であるのに、清掃が行われていない現状がある。参加者には現場で何を感じたか、自分はどうするべきかを、活動後のミーティングで班ごと話し合う。</p>
4. 活動の成果	<p>(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など)</p> <p>8月29日(燃えるごみ22袋、燃えないごみ1袋、漁網33袋、粗大ごみ100袋) 8月30日(燃えるごみ50袋、燃えないごみ1袋、漁網4袋) 8月31日(燃えるごみ67袋、燃えないごみ6袋、漁網19袋、粗大ごみ150袋) 9月1日(燃えるごみ57袋、燃えないごみ5袋、漁網275袋、粗大ごみ120袋) 9月2日(燃えるごみ29袋、燃えないごみ2袋、漁網14袋、粗大ごみ160袋)</p> <p>県内外の大学生76名、NPO法人パートナーシップオフィスの関係者4名、県職員2名の計82人で活動した。</p> <p>4泊5日のため多くの人に関わっており、無事に終わることができたことに今までより強く感謝の気持ちが生まれた。実際に活動して、どこの海岸でもごみ処理場のようにたくさんのごみがあり、私たちの海は、海岸清掃活動をするだけでは解決できないほどの問題になっているのではないかと感じた。海洋ごみ問題の解決のためには、ごみを拾い続けるだけではなく、同時に啓発活動をしなければならない。海岸清掃活動にはより多くの人が必要である。今回の経験を生かして、活動に参加する人を増やすだけではなく、活動を作る側も増やせるようにマネジメント活動をしていく。そして、啓発活動としてより多くの魅力的な活動を主催し、団体の知名度を上げていく。</p>

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

サービスラーニング支援事業

事業名	サービスラーニング支援事業			
目的	ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会を開催。学生の自発的活動、地域貢献活動の支援を行なう。			
	開催日	タイトル名・テーマ等	講師	役職・職名
1	11月17日 (金) 17:00~18:45	ウサヒから学ぶ非主流の地域おこし	佐藤 恒平	まよひが企画 代表

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	小野田 葉奈
事業名	ウサヒから学ぶ非主流の地域おこし		
開催日時	令和5年 11月 17日(金) 17:00 ~ 18:30		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室2		
内容	<p>観光・まちづくりコースの勉強会との共催として開催。山形県「若者支援コンシェルジュ事業」の「若者サポーター」として佐藤氏をお招きした。</p> <p>「非主流」の地域振興、桃色ウサヒプロジェクト、まよひが企画の業務内容や今後の展望などについてご講演いただき、講演後は質疑応答が行われた。</p> <p>佐藤氏は、東北芸術工科大学の大学院生時に「無個性な着ぐるみキャラクターを使って地域を内的に盛り上げる研究」として桃色ウサヒの活動を開始。「年齢問わず地域住民がウサヒのプロデューサー。ゆるキャラはツールであり、作ることが目的ではない。」「地域振興は課題解決のためにするのではなく、どうしたら地域の人が幸せかが大切。」など佐藤氏がこれまで様々な活動をしてきたからこそお聞きすることが出来るお話しだった。また、「非主流」とは、主流と同様の成果を別の道のりで目指す方法だと話していた。</p>		
講師	所属・職名	まよひが企画 代表、山形県 若者サポーター、 総務省 地域力創造アドバイザー	
	氏名	佐藤 恒平 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	58名		
感想	<p>本学学生50名、教職員8名の計58名の方に参加いただいた。</p> <p>参加した学生からは、「今まで自分には無かった新しい考え方を聞くことができ良かった。」「ウサヒが地域振興をしているのではなく、手伝いをしているのだと分かった。難しいものだと思っていた地域振興が少し近いものを感じた。」「継続や課題解決だけを目的とするのではなく、その先にある住民の幸せが重要だと分かった。」「地域振興を将来の職として考えていたので、そのための手段や方法は色々あることを学ぶことができました。」などの感想をいただいた。</p>		

地方創生に向けた人材育成事業
「ハタラクカタチ」

事業名	地方創生に向けた人材育成事業 「ハタラクカタチ」プロジェクト
目的	学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く方のライフスタイルを発信した。令和5年度は、5社を訪問し、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内地域企業見学バスツアー」にも参加し、冊子「ハタラクカタチ Vol.5」を発行した。本学学生に配付するだけでなく、地元高校・近隣大学、県・市などの商工担当課、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。
内容	①「ハタラクカタチ」プロジェクトの組織化 ②プロジェクトメンバーによる勉強会の開催、情報収集・ヒアリング等による企業研究 ③企業への説明・協力依頼 ④企業への取材 ⑤取材企業の冊子作成、若者を中心とした市民への発信 ⑥報告書の作成、発信活動
プロジェクトメンバー	3年：小野寺緋彩、佐藤真純 2年：石澤日和、大瀧里奈、菅原綾乃、張間千桜 1年：大貫凜、今野美歩、齋藤早帆、佐藤風馬
取材先企業	<p>【取材先企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社丸高 ・東北エプソン株式会社 ・株式会社主婦の店鶴岡店 パル店 ・有限会社スエヒロ みんなのそら ・株式会社山形飛鳥 <p>【庄内地域企業見学バスツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ウエノ（三川工場） ・株式会社板垣水道 ・株式会社グローバルマシーン <p style="text-align: right;">(順不同)</p>
冊子	発行部数：5,500部



「ハタラクカタチ Vol.5」は
こちらから

受託事業・補助事業の報告

地域共創センターが関わる令和5年度受託事業・補助事業について、報告します。

■受託事業

事業名	地域デジタル人材等育成事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市
実施期間	令和5年4月1日～令和6年2月28日
契約金額	9,700,000円
概要	<p>本学の高度な情報技術を活かした各種講座、研究を通じ、地域で活躍できるデジタル人材育成をするとともに、若者の地元定住を促進することを目的とし、令和2年度より受託している。</p> <p>4つの履修証明プログラム（「データサイエンスにかかる講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）の開講、「ITに関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内IT関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大がITを活用した地図コンテンツ作成」、「大学・高校連携コーディネータ業務」「公益大と地元IT企業で実施するプロジェクト型応用演習の開講」の10事業を展開した。</p>

事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定業務
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市社会福祉協議会（酒田市ボランティア・公益活動センター）
実施期間	令和5年6月8日～令和6年3月31日
契約金額	300,000円
概要	<p>平成27年度より「地域共創コーディネーター養成プログラム」の「コーディネーション研修」として認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会共催の「ボランティアコーディネーション力3級検定」を開講している。</p> <p>令和5年度も酒田市社会福祉協議会より「ボランティアコーディネーション力3級検定業務」を受託した。チラシ配布、新聞記事、酒田市社会福祉協議会広報誌、大学ホームページへの記事掲載等の方法で一般参加者を募集した結果、申込者は30名であった。検定受験者は28名（2名欠席）、検定合格者は26名であった。</p>

■補助事業

事業名	令和5年度 公益のふるさとづくり活動補助金 「地域共創による公益のふるさとづくり推進」事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	庄内開発協議会
実施期間	令和5年4月14日～令和6年3月31日
契約金額	1,000,000円
事業目的 及び概要	<p>令和5年度公益のふるさとづくり活動補助事業では、「地域創生に向けた人材育成事業」「FORUM21 実施事業」「共創カフェ事業」「学生活動支援助成金、まちづくりインターンシップ補助金、災害復興・地域防災活動支援助成金」「サービ斯拉ーニング支援事業」「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」「地域連携シンポジウム」を実施した。</p> <p>「地域創生に向けた人材育成事業」では、本学学生で組織する「ハタラクカタチプロジェクト」のメンバーが、若者の視点で庄内地域の企業の魅力や庄内で働く魅力を伝えることを目的に5社へインタビュー取材を行い、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内企業見学バスツアー」に参加し3社の取材をした。取材内容を冊子にまとめ発行した。</p> <p>「公益教養プログラム FORUM21」は7回開催、「教養講座共創カフェ」も2回開催した。</p> <p>「学生活動支援助成金、まちづくりインターンシップ補助金、災害復興・地域防災活動支援助成金」では、地域で活動する学生に助成を行っている。令和5年度は2件の活動へ助成を行った。</p> <p>「サービ斯拉ーニング支援事業」では、桃色ウサヒの佐藤氏にご講演いただき、勉強会を行った。</p> <p>「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」では、「ビジネスマッチ東北」に出展し、本学の教育研究についてPRした。また、共創センターのリーフレット・学生サークル「酒田おもてなし隊」の活動紹介パンフレットを発行した。随時大学のホームページや共創センターSNSにて積極的な発信を行った。</p> <p>「地域連携シンポジウム」では、4回の講演会を実施した。</p>

発行物のご案内

地域共創センターが令和5年度に発行したパンフレットや冊子を紹介します。

	発行物	内容	作成担当
1	地域共創センターリーフレット	地域共創センターの事業紹介	地域共創センター 事務室
2	冊子 ハタラクカタチ Vol. 5	庄内地域企業の魅力紹介	ハタラクカタチ プロジェクト
3	酒田おもてなし隊 2023 活動録	2023 年度の活動録	酒田おもてなし隊

新聞記事

日付	内容	カテゴリー	媒体
3/31	ガイド役高校生ら おもてなしの準備 外国クルーズ 来酒へ 50人が英会話と観光施設実地研修(5面)	学生	荘内日報
4/16	高校生ドキドキおもてなしツアー 英クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」寄港 酒田観光PR 呈茶やまち歩き案内(1面)	学生	荘内日報
4/16	森林浴楽しみごみ拾い 光ヶ丘周辺 山きれいうオーキング(7面)	学生	荘内日報
4/26	再生エネを地域の力に 酒田、公益大シンポ(20面)	その他	山形新聞
4/27	再エネを活用した地域活性化考察 公益大地域連携シンポジウム 洋上風力やバイオマスでパネル討議(1面)	その他	荘内日報
4/30	県少年警察大学生ボランティア 東北公益文科大生9人を委嘱(7面)	学生	荘内日報
5/2	日本を再認識、海外体験 公益大生 語学留学など報告会(10面)	学生	山形新聞
5/2	非行防止に大学生が協力 県少年警察ボランティア 9人を委嘱(12面)	学生	山形新聞
5/3	オランダせんべい「にぼせん」新発売 酒田米菓と企業・団体 「酒田のラーメン」廃棄煮干し有効活用し地域貢献の一助に(麺恋の)(7面)	学生	荘内日報
5/3	ハプニングもい経験に 公益大 海外留学や就業体験報告(7面)	学生	荘内日報
5/13	歴史的流れと最新情報解説 両角さん「核なき世界」実現の重要性説く 公益大FORUM21(1面)	その他	荘内日報
5/16	港町の景色眺め各種料理楽しむ 酒田 倉庫対岸で「山居バル」(Praxis)(11面)	学生	山形新聞
5/16	景観と飲食楽しむ酒田「山居バル」 魅力いっぱい にぎわい創出(Praxis)(1面)	学生	荘内日報
5/17	交通の持続可能性探る 酒田 公益大・地域連携シンポ(22面)	その他	山形新聞
5/18	新たな地域交通 可能性探る 公益大シンポ 再生可能エネルギー活用視野に(1面)	その他	荘内日報
5/21	酒田まつり本祭り これこれ！獅子パクン 4年ぶり華やか花魁道中も(26面)	学生	山形新聞
5/31	海・川きれいに 飛島で190人環境保全活動 4年ぶり大規模クリーンアップ作戦(5面)	学生	荘内日報
6/1	コロナ禍前の各種活動展開 酒田「小さな親切」の会総会事業決める(Praxis)(2面)	学生	荘内日報
6/13	食品ロス削減メニュー作り 酒田 フードドライブの食材活用(Liga)(7面)	学生	荘内日報
6/20	豊かな食材、自然 それが酒田の魅力 公益大、地域連携シンポ(22面)	その他	山形新聞
6/21	公益大地域連携シンポ番外編 土門拳の画角で酒田の魅力撮影 「相馬樓」メインに日和山・台町巡る 北前船で栄えた街 当時のにぎわい再認識 有識者座談会 文化・芸術意見交わし考察(1面)	その他	荘内日報
6/24	「酒田のラーメンexpo」9月17、18日開催 全国有名店とコラボ5種7000食(麺恋の)(1面)	学生	荘内日報
7/8	ネットの闇 若い目で監視 県警サイバーパトローラー 専門学校生に委嘱(22面)	学生	山形新聞
7/12	東北公益文科大学 地域連携シンポジウム 語り合った庄内の将来像 カーボンニュートラルを軸にした地域デザイン(10面)	その他	山形新聞
7/12	見違えるほどすっきりと クロマツ保全活動 公益大、山大生下草刈り 酒田(5面)	学生	荘内日報
7/13	海岸林 後世に伝える 住民と大学生ら保全活動(12面)	学生	山形新聞
7/15	広く深く出前授業 食べ物を中心に「家でぜひ実践」八幡小(Liga)(12面)	学生	山形新聞
7/15	食品ロス考え削減の大切さ伝える 八幡小で公益大チームが出前授業(Liga)(7面)	学生	荘内日報
7/29	献血推進に功労たたえる 庄内から厚労大臣表彰・感謝状など5団体(公益赤十字サークル)(4面)	学生	荘内日報
8/1	マリンスポーツ楽しみ「爽快！！」ねずがせきバリアフリービーチフェス 車椅子でビッグサップ体験(7面)	学生	荘内日報
8/10	港湾地域での水素活用探る 酒田で第2回「みらいミーティング」(2面)	その他	山形新聞
8/10	「闇バイトは犯罪です」酒田でチラシ配り非行防止呼び掛け(7面)	学生	荘内日報
8/12	子どもを守ろう非行防止へ啓発 酒田署(14面)	学生	山形新聞
8/12	港湾地域における水素利活用 公益大 県主催 可能性探る「みらいミーティング」(2面)	その他	荘内日報
8/19	心の居場所づくり 酒田 夏休みの宿題などサポート(7面)	学生	荘内日報
8/22	地域デジタル人材育成へ 4者が協定 酒田市、公益大など(2面)	その他	山形新聞

日付	内容	カテゴリー	媒体
8/23	デジタル人材育成 酒田市など4者連携協定(1面)	その他	荘内日報
8/26	「原爆あってはならない」洋画家・三浦さん(鶴岡)体験語る 酒田(12面)	その他	山形新聞
8/27	戦争の悲惨さ平和の尊さ思い込め 三浦さん(鶴岡)広島での被爆体験 酒田「共創カフェ」公益大生や市民へ語る(7面)	その他	荘内日報
8/31	雲の隙間に輝く姿スーパームーン 酒田・公益大で観望会(26面)	その他	山形新聞
8/31	漂着ごみ増える一方 全国の学生、清掃活動に汗(IVUSA)(24面)	学生	山形新聞
9/2	クレーター見えた!! 酒田 スーパームーン観望会(1面)	その他	荘内日報
9/3	全国から大学生ボランティア集合 漂着ごみ回収に汗流し交流 酒田市から遊佐町の3海岸5日間活動(IVUSA)(6面)	学生	荘内日報
9/4	酒田観光、傾向は「山居倉庫が重要な拠点施設」調査報告会 公益大・三木教授が戦略含め開設(9面)	その他	山形新聞
9/6	山形なじみのしょうゆ味に 米沢の企業、ラーメン発売 公益大の同好会と協力 第2弾(麺恋の)(12面)	学生	山形新聞
9/6	海岸清掃用具を学生団体に寄贈 ダイナムイオン酒田店(IVUSA)(18面)	学生	山形新聞
9/7	熱心な清掃活動に応援 ダイナムがIVUSAに漁網カッターとゴム手袋寄贈(IVUSA)(5面)	学生	荘内日報
9/18	名店の味すすり尽くせ 食材に庄内産 酒田・ラーメンエキスポ(麺恋の)(22面)	学生	山形新聞
9/19	expo2023にぎわう 酒田のラーメン発信 地元店と県外店コラボ(麺恋の)(1面)	学生	荘内日報
9/24	多彩な手作り品 じっくり品定め くらふとフェア 酒田(Liga)(11面)	学生	山形新聞
9/26	大学生ボランティア県内2団体に助成金 東北労金20周年、新制度(Liga)(9面)	学生	山形新聞
9/26	市民が下草刈りやごみ拾いに汗 酒田・光ヶ丘地区環境美化ボランティア(6面)	学生	荘内日報
10/13	語学留学やインターンシップの体験報告 公益大からUCCやモンゴル人材開発せへ これから希望する在校生が真剣に聴き入る(5面)	学生	荘内日報
10/29	保全手法 理解深める 日本海岸林学会酒田大会が開幕(22面)	その他	山形新聞
11/1	海岸林を考える 東日本大震災からみた津波減災機能と再生10年 防潮堤と特性考え整備 立ち枯れ被害意見交わす 酒田・シンポ(1面)	その他	荘内日報
11/10	海岸林の機能や保全 参加者が意見交わす 酒田で日本学会シンポ(14面)	その他	山形新聞
11/12	「アップ」「ダウン」合図は英語で 公益大・地域共創センター 学生が学びながら「ヨガ」 酒田市ALTフェイリンさん指導(6面)	学生	荘内日報
11/12	クロマツに”恩返し” 酒田市飯森山 市民参加し森林整備活動(7面)	学生	荘内日報
11/15	食品ロス削減考える サルベージクッキング 酒南高で市民取り組む(Liga)(2面)	学生	荘内日報
11/24	就職活動控え地元企業訪問 公益大で見学会 視野広め認識深める(1面)	学生	荘内日報
11/24	非主流の地域おこし考察 公益大講演会 朝日町「ウサヒ」取り組み紹介(2面)	その他	荘内日報
11/25	CAと連携 庄内に変化「ブルーアンバサダー」活動2年 酒田ANAあきんど支店長講演(14面)	その他	山形新聞
12/13	アドバイス受け興味津々 大学生が郷土料理に挑戦 理解深める(4面)	その他	荘内日報
12/20	サブカルチャー生まれる背景 公益文科大22年度ベストティーチャー 渡辺准教授が公開講座(2面)	その他	荘内日報
12/22	干し柿料理召し上がれ 地元食材を発信 公益大生がメニュー検討 来月20日、日向里かふえで提供(Praxis)(13面)	学生	山形新聞
12/24	日曜インタビュー 食品ロス自分事として「みんなで取り組むべき問題。活動を広げたい。」(Liga代表 鈴木冨香さん)(14面)	学生	山形新聞
1/4	全国初の取り組み「ANA庄内ブルーアンバサダー」 CAが地域に移住 活性化に一役 創生活動で得たもの 今後の展望は ANAあきんど庄内支店長前田誠氏講演(3面)	その他	荘内日報
1/10	子どもの自立を支援 授業復習サポートと遊び 公益大生と連携「心の居場所づくり学習会」酒田(7面)	学生	荘内日報
1/19	この夢”あっさり”終わらせたくなくて 酒田愛マシマシ「麺恋の」出店 公益大ラーメン同好会 市内国道7号沿いに(麺恋の)(22面)	学生	山形新聞
1/22	干し柿、おいしさ主張 ミートソースなど3メニュー提供 公益大生が考案、好評(Praxis)(8面)	学生	山形新聞
1/24	庄内名産「干し柿」メニュー考案 パスタとサラダにどら焼き 日向里かふえで提供 公益大サークル「プラクシス」(Praxis)(5面)	学生	荘内日報
1/29	市課題の解決策提案 公益大生(8面)	その他	山形新聞

日付	内容	カテゴリー	媒体
1/30	酒田の課題 ITでどう解決 成果発表会 公益大受講生構築ツール披露(2面)	その他	荘内日報
2/4	起業は地域への恩返し「ら〜めん麺恋の」オープン 酒田 “学生社長”佐藤さん(公益大4年)活動の集大成 連日市民訪れ人気店に(麺恋の)(7面)	学生	荘内日報
2/24	障害者との共生社会考える まちキネ映画関連 大学・高校生が意見交換(7面)	学生	荘内日報
3/15	学生の志と力 砂浜きれいに 鶴岡でボランティア団体(IVUSA)(12面)	学生	山形新聞
3/16	全国の大学生90人漂着ごみ回収 鶴岡の海岸で5日間 地域課題発信(IVUSA)(1面)	学生	荘内日報
3/27	山形SDGsアクションZ世代トークセッション「持続可能」への道 私の歩き方は(Liga新代表 高木七美さん)(16、 17面)	学生	山形新聞
3/30	遊佐 空き店舗利用、大学生などが運営 中高生の居場所ここに「気軽に話せる環境必要」(16面)	学生	山形新聞
3/30	公益大生、地元企業の魅力紹介「ハタラクカタチ」第5号完成(16面)	学生	山形新聞
4/4	若者目線で魅力を発信 公益大生が庄内の企業取材まとめる「ハタラクカタチ」第5号発行し配布(7面)	学生	荘内日報